

体験学習農園のご案内



※左端は事務所

体験学習農園の古い民家

体験学習農園には、農村の伝統や生活文化を保存展示するため、岡山県内各地の代表的な民家を厳密な考証のもとに移築もしくは再現しています。

研修生宿舎

160㎡ 約48坪

備前型と呼ばれる県南部の典型的な型の民家で、約170年前に御津町紙工に建てられたものを、昭和56年にこの場所に移築しました。8畳、6畳、4畳の三間流れの座敷のほか、8畳、6畳の奥の間と納戸があり、県内の標準よりも大きな家です。また、玄関を入り右には内廐（うちまや）があり、家畜を母屋の中で大切に飼っていたことがわかります。屋根の上の箱棟と四方の庇（オダレと呼ばれる）が瓦葺になっているのが外観上の特徴で、備前地方には比較的早くから瓦が普及していたことを示しています。



農業歴史展示館

137㎡ 約42坪

中国山地型（蒜山地方）の民家を再現し、昭和58年に新築したものです。蒜山地方には比較的大きな民家が多く、その平均的な面積は県内最大規模となっています。土間と板の間が広く、家の半分以上を占めていますが、これは積雪の多い冬に、家の中で農作業をするためのものです。屋根は古くからの様式を残した茅葺の寄棟造りで、軒の低さと屋根棟に乗った杉皮づくりの棟飾り（カラスオドリ）が外観上の特徴です。



生活展示館

72㎡ 約22坪

備中町平川地区の民家を再現し、昭和58年に新築したもので、備中型の中でも、特に野呂型民家と呼ばれています。部屋が横一列に並び並列型間取りで、部屋の大きさは、畳の間が7畳半、いろりの間が12畳半と「半畳」単位になっており、これが野呂型民家の特徴とされています。入母屋造りの屋根棟の両端に立てられた魔除の竹（コウガイ）と、柱の外側に壁土が塗られ、柱が見えない大壁が外観上の特徴です。



研修館

92㎡ 約28坪

新見市草間地方にあった民家を再現し、昭和57年に新築したもので、備中型と呼ばれる民家の一種です。畳の間は6畳だけで、屋内作業のため、いろりの間と土間を広くとっています。また、家の中に便所はありませんが、この型の民家では外便所や外廐が一般的でした。屋根は茅葺の入母屋造りで、冬の積雪に備え、雪が自然に落ちるよう屋根の傾斜が大きくなっているのが特徴です。



※ 諸般の事情により、体験等の受け入れは現在実施していません